

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年1月23日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270401500		
法人名	有限会社 春陽		
事業所名	有限会社 春陽 グループホーム 福田		
所在地	〒854-0001 長崎県諫早市福田町 3346 番地 5		
自己評価作成日	平成26年12月23日	評価結果市町受理日	平成27年2月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php</a>
--------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町 3118 番-1
訪問調査日	平成27年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>“ゆったりと その人らしさを 大切に” の理念を基、入居者一人一人に対し、個人援助をすると共に、その人らしく、安心して生活していただける環境づくりに力を入れる。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>当ホームは、地域に馴染んだ家庭的な雰囲気、玄関からロビー、階段の壁面にホーム名の「副」を「福」に見立て、フクロウの置物や手作り作品などを数多く飾られている。また、入居者の「パチンコをしたい」の要望に応じて、代表が台を手作りして備えられ、入居者の楽しみに繋がっている。代表と職員は、入居者の思いや希望に応じて、夜景やイルミネーションの見学・外食など家族のように、勤務外もいとわず迅速に対応されている。特徴的な支援として、7月中旬から8月末において、週1回夕方入浴を職員の協力の下、実践されている。代表と職員は、共通意識をもって、入居者の栄養・健康管理及び家族・医療との連携を図り、理念と月間目標に沿った支援を心掛けて、外部の研修への参加や内部の話し合いにより、ケアの質の向上に努められている。</p>
--

## 1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員、常に意見を交換し、入居者各個人のペースを崩さない声かけ誘導を目指し、その人らしさを尊重したケアの徹底に向け、職員全員が理念の実践に取り組んでいる。	理念は、職員相互に話し合い、入居者も解り易く「ゆったりとその人らしさを大切に」という理念を掲げられている。職員は、毎日申し送りなどに唱和をして、理念に基づき、共有した支援に努められている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや行事は夜間や早朝が多く、入居者の参加は難しいが、ホームの行事等へ地域の方の参加を呼びかけ多数の参加がある。日々の挨拶も定着している。	町内会に加入して、職員が町内行事の道路清掃や、運動会に参加されている。町内の班長さんの配慮で、楽器の演奏や訪問される折もある。避難訓練を実施の際は、参加への案内を声掛けして、近隣の大家さんが参加されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との話の中で悩みや相談があった場合、事業所として出来る事は何かを考え、前向きに行動できるように努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業計画や活動報告を行っている。出席者からの意見や質問に対しては次の開催時に検討した結果を報告している。ホーム内にて開催し現場の様子が見えるようにしている。	会議は、2か月を目途に市職員・市内のGH施設長・元民生委員・職員で構成されている。会議内容は、事業報告及び予定とヒヤリハット・事故報告や入居者の状況と課題など双方向に話し合い、GHとの交流にも繋がっている。	会議への参加者を消防署職員・警察職員・入居者・入居者の友人など行事と連携した会議の進行を図ったり、GH栄田の会議に参加の機会を頂き、情報の収集と地域との関係構築への工夫を期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者に出席していただいております。わからない事や疑問に思っている事は相談にのっていただいております。	管理者は、市役所に直接出向き、生活保護の代行手続きや、更新手続きなど連携を図られている。さわやか介護相談員(月2回一人ずつ)を受け入れて、受容内容を支援に反映されている。	

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内で身体拘束ゼロ推進委員会を設置している。会議の際、全職員で日常ケアの中で常に身体拘束にならないかを考え実践している。	職員は、身体拘束をしないケアの意識を大切に、月間目標を決めて申し送り時に理念及び月間目標を唱和して、ケアの実践に繋がられている。入居者は、自由な生活行動範囲を自分のペースで過ごされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・計画作成担当で研修会に参加し、その研修内容を全職員に周知した上で、委員会の開催、月間目標の設定を行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等には、すすんで参加し、必要な時は活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際にしっかり説明し理解を得ても、家族の意向は変化する場合がある為、十分に説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現状は意見・要望はないが、意見箱を設置し、記入していただくよう声かけしている。意見・要望があれば、真摯に受け止め、迅速な対応に心がけている。	遠距離で訪問される家族は、宿泊頂き、その折に、介護計画の説明や親睦を深められている。入居者のアンケート調査の取組みと家族の訪問時、必ず口頭で意見や要望を伺う時間を設けて、信頼関係の構築と満足度に繋がられている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り意見を聞き出すようにしている。また、全体会議の際も職員の要望や考えを聞く機会を設けている。	代表と職員の関係性は良好で、職員相互の連携を大切に、協力関係も向上して資格取得への支援や研修参加も積極的にレベル向上に努められている。職員は、入居者の希望に応じて、休日も惜しまず外食やバイキングを家族のように共に楽しまれている。	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者も職員と同様のシフトに入り、職員全体の勤務状況、職場環境について会議や個別に話し合いを行い、各自のやりがいや向上心につなげられるように努力している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会等への参加を呼びかけ、多くの職員が参加出来る体制を整えている。ホーム内でも勉強会を開催し、全体的な質の向上に努めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会へ参加し、他事業所との交流を持っている。他事業所の行事へ参加したり、1日研修を行っている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>訪問調査で本人の状況を把握し、本人との会話の中から不安な事等を聞き出す努力を行っている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の方が求めている事を理解し、入居者の状況や家族の意向等、相談時や訪問調査時に聞き出している。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時は、当ホームの利用だけではなく、他事業所や他のサービスも視野に入れた対応をしている。</p>		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員が第二の家族という考えを持ち、入居者に寄り添い、和やかな生活が出来るようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までの各入居者の生活歴や家族関係を理解し、行事に誘ったり一緒に過ごしてもらい、良い関係が出来るように心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各入居者の生活歴を把握し、面会や外出の機会を絶やさないようにしている。	職員は、入居者の友人の訪問を快く受け入れて、楽しい時間や入居者の希望に応じて墓参りなどの支援もされている。遠距離家族の来訪の宿泊支援や自宅への一時帰宅の支援で関係継続を保持されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人で部屋で過ごす事が好きな方もいらっしゃるが、なるべく皆で過ごす事が出来るように声かけしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡を取り、相談にのっている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人ひとりの望んでいる暮らし、思い等を日頃の会話や表情の中から汲み取り、職員全員で把握している。	職員は、日常的な関わりの中で、常に入居者の言葉に耳を傾けて満足気な表情を楽しみに支援されている。入居者の身体状況を把握した上で、外食や夜景・イルミネーション見学の外出を共に楽しませている。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問調査時に家族への聞き取りや、入居者との会話の中から情報を集め聞き取るようにしている。又、記録に残し把握している。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方を把握し、小さな事まで見逃さないようにしている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者と話し合い、目標を設定している。家族の方に説明・同意を行う際に、今後の希望や思いを聞き出す様に努力している。	介護計画は、職員担当が状態観察や達成度を考慮の上、作成後に他の職員も参加の下、業務の合間に話し合い作成されている。見直しは、長期6か月・短期3か月・必要に応じて随時に取り組み、達成度の評価でミキサー食から普通食に向上されたケースもある。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状態の変化は小さな事でも日々の記録に記載し、職員間で共有出来るようにしている。1カ月ごとにまとめを行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出時の送迎やホームの面会時の宿泊等、その時々生まれるニーズに出来る限り対応している。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察署や消防署より理解と協力を得ており、ホーム近隣には班長宅や町内老人会会長宅があり、常に協力が得られている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族が希望するかかりつけ医に診てもらい、かかりつけ医と連絡や相談をしながら、心身の変化や異常発生時に適切な医療が受けられるようにしている。	入居者のかかりつけ医を継続的に、職員が定期的な受診を支援されている。受診の際、家族の意向や必要に応じて同行を依頼されている。歯科衛生士の資格保持の職員指導の下、口腔ケアをしっかりと取組まれている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置している為、常に連絡や相談をしながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と情報を交換し、早期退院に向けた支援をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における方針について、入居者本人・家族と話し合い、共有すると共に、近隣の方々へ急変時や緊急時の対応について説明し、その際協力について了承いただいている。	看取りの経緯があり、入居時の説明の段階で家族と話し合いをされている。重度化の状況の場合は、「終末期介護に関する合意書」に沿って、医療・家族・職員の連携により、夜勤及び待機職員で対応を考慮されている。職員は、救命救急や気道確保など内部研修でレベルの向上を図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内の研修にて繰り返し勉強している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に避難訓練を行い、入居者・職員共に訓練している。又、その際には消防署・消防設備会社・地域の方にも参加して頂いている。	避難訓練は、住環境を考慮して、バルコニーから、らせん階段への避難などを実践されている。入居者の身体状況を考慮して、職員代行で訓練を取組み、安全避難に向けて一階バルコニーからのスロープを考慮されている。前回の評価後の取組みとして、災害時の広域避難場所を確保して、家族に報告をされている。	立地環境を考慮した災害に備えて、避難・防災訓練（防災計画書作成の提案）の実施と備蓄リスト作成（消費期限明記）による補充及び地域の協力体制の構築を期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重した支援が行われている。呼称は基本的に名字であるが状況により、臨機応変に対応されている。  職員は、入居者一人ひとりの暮らしを尊重して、孫のような関わりと家族としての意識を大切に支援されている。職員は、笑顔の絶えない安心・安全な環境の下、名字で声掛けをして見守る心でプライバシーにも配慮して支援されている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に、わかりやすい言葉を選び、職員側で決めた事を押し付けるような事はせずに、本人が決める場面を作っている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、入居者の体調や状況にあわせて、各個人のペースで過ごされている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分が着たい服を選んでもらったり、好みの髪型に出来るように、入居者の希望の美容院へお連れしたりしている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにされている入居者が多いので、皆で準備や後片付けが出来るようにしている。食事の際は入居者と職員が同じ物を同じテーブルで食べ、楽しい雰囲気づくりを心がけている。  調理担当の職員により、塩分控えめな味付けと彩りもよく、「おいしい」と話される入居者や職員との和やかな食事を楽しまれている。時折、入居者も買い物に行かれたり、調理のお手伝いも参加され、希望に沿ってラーメンやバイキングの外食も支援されている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事量・水分量を把握し、栄養士を中心に栄養管理を行っている。入居者によっては刻み食やオニギリにし食べやすいように工夫している。

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	全入居者に対して口腔ケアを働きかけ、歯科衛生士を中心に実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	全入居者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をする事でトイレでの排泄を促している。心身の状況や時間帯に応じて下着やパット等の使い分けも行っている。	入居者の排泄状況を把握して、日中は布パンツにパット使用で時間や入居者の表情を留意して、自立排泄を支援されている。夜間に起きることを困惑される入居者の支援として、パット交換で睡眠の継続に繋がられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には野菜や果物を多く取り入れ、体を少しでも動かすように体操したり、入居者一人ひとりにあった便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の要望を取り入れながら入浴を楽しんでもらっている。夏場は就寝前の入浴にも取り組んでいる。	入居者の居室の個浴を日替わり（排水溝管理の為）に使用して、週3回程度しょうぶ湯なども楽しまれている。入居者は、「自分の家のお風呂に入れる」安心感と他の入居者も自分の家のお風呂に入る共有意識を育まれている。入浴拒否の状況に応じて職員も入浴されたり、2人対応などで支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間を設けているが、昼夜逆転しないように配慮し、日中の活動量を確保するようにしている。自然に入眠して頂けるように、夜に向けての雰囲気作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人ファイルに綴じ、いつでも確認出来るようにしている。薬が変更になった時には、通院記録に記載し、情報を伝達するようにしている。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりに役割や楽しみがあり、それを尊重し日々の生活を楽しく送れる様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者一人ひとりの状態や、希望に沿って出来るだけ戸外にお連れするように心掛けている。個人の意見を聞き出し、行きたい所に行けるように支援している。	職員は、休日を利用して入居者の希望に応じた外出で共に外食を楽しんだり、身体状況を把握して夜景やイルミネーションの見学に出かけられている。また、初詣や花の開花時期を事前に調べて、外出の機会の「今」を逃さず一緒に楽しまれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額な金額はトラブル防止の為、所持して頂かないようにしている。お小遣い程度は自由に所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じて電話や手紙の対応を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるように写真や季節の装飾品を飾り、殺風景にならないようにしている。柚子湯や菖蒲湯等の季節感を味わったり、日常生活の音を取り入れる工夫もしている。	職員は、その日の献立や、手作りの日めくりカレンダー・訪問販売日程・相撲の勝敗を明示して、利用者と共に生活感を共有されている。入居者が一人で楽しめるパチンコなど遊び心も大切に、自立に向けた生活支援を配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや廊下の椅子・玄関先のベンチ等、自由に過ごせるような場所を用意している。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者や家族と相談し、使い慣れた家具や装飾品、家族の写真等を持ち込んでもらい、一人ひとりの好み、習慣に合った環境作りを行っている。	居室は、広々とした各部屋に浴室・トイレ・台所（使用なし）を備えた、2間（畳の部屋あり）の部屋をドアで仕切り、押し入れや持ち込みの箆箆に見当識に配慮したシールを貼られている。入居者が、過ごしやすいようにテレビやベッドを配置して、持ち込みの寝具に食後休息を得られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入口やトイレ等表示し、状況に応じて環境整備に努めている。必要な場所には、随時手摺等を設置している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない